

男女の視点からの防災活動

2011年3月に起きた東日本大震災、2011年9月に起きた紀伊半島大水害では、甚大な被害のために、多くの被災された方々が避難所での生活を余儀なくされました。

いつ起こるかわからない大災害に備えて、避難所での生活に男女共同参画の視点を取り入れることが重要な課題となっています。

もし私たちの住んでいる地域で災害がおり、 避難所生活をするになったら…

避難所の生活では「命が助かっただけでありがたい、がまんすべき」と考えて、遠慮をしてしまい、なかなか意見を言えなかったり、希望を伝えにくいということが起こりやすいといわれています。

また男女のニーズの違いを把握し、適切な対応をすることも大切です。

こういったことから、避難所の運営にも、男女双方の声が必要になってきます。



男女のニーズを踏まえた対応等

避難所で提供する物資に含めるもの

- ・生理用品、おむつ等 ※支援物資の配布を女性が担うこと等で、受け取りがスムーズに進みます

避難所の設計

- ・異性の目線が気にならない更衣室・授乳室、洗濯物干場の設置
- ・安全な男女別トイレの設置 ※女性ゆえの不安や恐怖感を取り除くことが大切です

避難所の運営体制

- ・各避難所の運営体制への女性の参画 ※女性が参画することで上記の対応等がスムーズにおこなえます

防災分野への女性の参画を推進し、 地域における防災力の向上を図りましょう

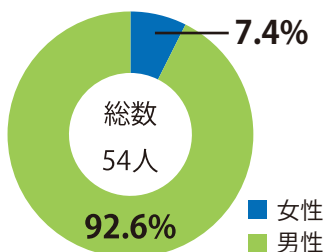
地域活動に男女双方の視点を入れるため、防災分野の方針決定の場や、自治会、消防団等の防災組織への女性の参画を図ることが大切です。



防災分野等への女性の参画状況

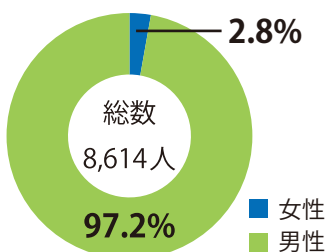
県の防災分野等における女性の参画状況は、下のグラフを見てのとおり、とても低いのが現状です。

防災会議への女性の参画状況
(H24.10.15 現在)



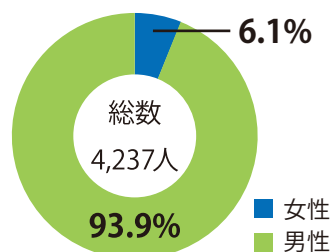
奈良県女性支援課調べ

消防団員における女性の割合
(H24.4.1 現在)



奈良県消防救急課調べ

自治会長に占める女性の割合
(H24.4.1 現在)



奈良県女性支援課調べ